

平成27年度 第6回 自治基本条例推進会議 議事録

日 時：平成27年12月8日（火）

午後6時～8時

会 場：榛原庁舎4階 会議室1・2

4 議 題

- (1) 第5回対話の場の進め方について
- (2) これまでの経緯と今後のスケジュールについて

～事務局より議題(1)、(2)の関係資料(資料1・2)について説明～

戸塚委員：

- ・答申の中身をどのレベルに持っていくのかということは、この会議がスタートした時から感じていたこと。固有名詞を出すレベルまで掘り下げて答申とするのか、ジャンルの方向性を出すことを答申とするのかで中身はガラッと変わってくる。今まで市側から提供した各種の情報によって対話の場のメンバーが考え出す中でも変わってくる。
- ・総合的に考えて、きちんとした答申を出すためには答申を半年延ばすということも仕方ないと思う。その半面で、答申を先延ばしにすることによって、4月から新年度が始まるという時間軸の中で各部署に影響が出てくるのでは？

澤島委員：

- ・市民自体に公共施設マネジメントの動き、自治基本条例推進会議の動きがまだ隅々まで行き届いていないと感じている。学校問題が入ってくると必ず反対意見が出てくる。丁寧にこれまでの経緯・考え方を周知していくことが大切。みんなの意見が入った答申だということを理解してもらわないと。

櫻井委員：

- ・これから個別問題に入っていても、いろいろなところからのプレッシャーはくると思う。それは当初から予想されていたこと。意見は意見としてどんどん提案して、賛成の意見も反対の意見もどんどん聞いて、お互いの落としどころを求めていかないと。新聞報道も良い解釈で捉えれば、これからつながっていくのでは。対話の場が出る意見も皆さんビジョンが大きい。将来の牧之原市のあるべき姿を思い描いて、それに向かった方向性を立てていかななくては。

山本委員：

- ・この会議での話し合いで、子供に負の資産を残したくない、もっとスピードをもってやろう、民間も巻き込んでやっていこう・・・という意見が出されてきたと思う。次の世代に対する負の遺産をいかに軽くするかということが、誰にとっても一番分かりやすいと思う。子供たちにそんな負の財産を残したくない・・・というのが人間の心理。みんなが「そうだ！」と納得出来るような見出しを出したほうが目につく。スピーディーにやるところと丁寧に説明していくところのメリハリが大事だと思う。

永田委員：

- ・延長してゆっくり話をしていくということに関しては賛成。これからの話し合いの仕方として、漠然とした中で考えてもらうよりも、そろそろ具体的・現実的に考えてもらったほうが良いのでは。(相良庁舎の跡地利用など)
統合を考えた場合、建物の特徴から榛原が適するという意見になるのではないか、そのため、相良庁舎は、近隣に史料館などがある特徴を踏まえて、どのように活用するかを考えてもらう。

小川委員：

- ・ゆっくりしっかりやっていけば良いと思う。

副会長：

- ・まだまだ浸透度・理解度が足りない。時間をかけてやっていくほうが良いと思う。
- ・グラフィックを最大限に使っていることで、現実的な問題をドリームプラン的に描いてもらっている。ドリームプランではそこまでの痛みは感じないが、現実の問題がある。今後は統合という方向でキャパの問題・浸水の問題を考慮すれば自明であると思う。そのことに加えて、跡地をどう複合的に使っていかを話し合っていかなければ。第5回の対話の場でも出された意見を踏まえて、答申ではある程度具体的に出していくことが良いのでは。

櫻井委員：

- ・市民の理解を得ることが大事。今までのやり方では半年経っても変わらない。どう理解してもらうか。対話の場に参加している人がそれぞれ地元に戻って、周りに話をしてくれているか？どう市民全体に理解を求めていくか、具体的な策を考えておかないと、時間だけが経って、一部の人たちの話し合いだけで終わってしまう。

澤島委員：

- ・半年という期間が良いのかどうかは自分も分からない。延ばせば良いというものでもない。20年の内の半年と考えると貴重。方法をもう少し変えながら、周知も

教育文化部長：

- ・片浜小学校については29年4月と市長が明言している。そのスケジュール感でいくと、来年3月(当初、答申が出されるとされていた)には議会の皆さんにも了解をもらうところまでいかないと4月以降の準備に支障は出てくるが、対応を考える。

専門監：

- ・答申の時期を延ばそうと考えたのは、もう少し意見を集めたものの中で推進会議の皆さんに検討してもらい、答申をしてもらいたいと考えたから。推進会議の皆さんが「これでよい」という意見であれば、答申を3月にももらえればそれでも良い。今までの対話の場での意見が少なかったとは思っていない。
- ・答申をしてもらうイメージとして、空いた施設をどう使うのかということが重要。庁舎に関しては、相良・榛原・高台どれも公平に考えていくスタンスは変わらない。その中で、いろいろな数字や根拠を出した中で必然的にどちらの庁舎がという話になり、そのレベルの答申になれば、次にそれぞれの部署で何かを進めるときに後戻りなしに進められると思う。
- ・必要な情報を提供することを含め、丁寧に進めるということも必要と思った。
- ・早い時期に一定のものをもって、あとは市のほうで進める・・・というのも、今、教育委員会の話を聞いて重要かと思ったが・・・元の答申の時期を目指して頑張るということも大事だと今、気付いた。

会 長：

- ・今まで4回の対話の場を設けたり、これまでも意識調査をしたりして、かなり丁寧にやっているという印象。新聞記事が出たことで、結果としてももう少し丁寧な周知をして慎重に進めていくことが必要と市として考えたと思う。
- ・自分たちの答申を具体的に施策にうつしてもらうことを考えると、教育文化部の件もあれば答申は3月でも良いのでは。利用者のアンケートも含め、今までの議事録を見ても一つの方向は出ているように思える。ただ、誤解がある人に対して解く方法に関しては時間しかない。そこは市としての問題では？

副市長：

- ・議会としては、この答申を受けて特別委員会をつくって議会でも議論したいと考えているよう。
- ・当初の予定通り3月に答申と基本計画両方となると時間的にタイトではないか。基本計画は若干ずれても良いかもしれないが、答申は出来ることなら3月にまとめてもらいたい。それを受けて議会も動き出すと言っている。議会を敵にまわすと遠回りになってしまう気がする。否決されてしまうと何もならないので、そこは丁寧にやっていきたいと考えている。

丁寧に行きながら、決断はスピーディーに進めていってほしい。

戸塚委員：

- ・時間をかければ良いものが出来るとは限らない。出来るだけ具体的にすることにしたいが、対話の場のメンバーに結論までを求めようとしたら、今までのやり方では足りないものがあると思う。一つ目は利用者の声。二つ目は運営コスト。ゴールをどうするかは自分たち推進会議としての責任。

櫻井委員：

- ・答申の内容(具体例を出すのかどうか・・・)がある程度決まっていなくて・・・

戸塚委員：

- ・抽象的にこの領域をこう評価してほしい・・・ということだけなら、5か月もかけてももたない。そのへんのあんばいをどうするか？

会 長：

- ・市長から諮問を受けたのは、この施設は潰す、この施設は残す・・・ということではなくて、基本的な方向性だったと思う。9つの分野それぞれについての考え方について諮問を受けて市長に答申すれば良いと思っている。
- ・対話の場は、市が主催しているものではない。答申をするにあたって一人でも多くの市民の声を聞くために推進会議主催でつくった。対話の場で議論されていることが正論とは言わないが、基本的な方向だろうと思う。時間が解決してくれる問題もたくさんある。延ばすことは良いと思う。最終的に決めるのは議会と市。

市 長：

- ・来週月曜に一般質問。庁舎問題についても質問があがっている。議員からの質問に答えることで、行政側の課題や将来像について議論が出来ればと考えている。
- ・答申は「市長はこうしなさい！」ではなく、「市民からはこんな意見が出ています。こういう考え方があります。あとは市長が決めて下さい」というもの。
- ・答申について、半年延ばすという話も担当課からあったが、推進会議として3月までで良いという意見ならそれも一つ。

会 長：

- ・答申については白黒付けたとしても、「これを参考に市長、議会で決めて下さい」という程度。
- ・一人でも多くの市民に理解を得るためには時間をかけて丁寧に慎重にやっていくことが良いと思う。

会 長：

- ・資料2、2の(3)・・・は別の話？

～事務局による説明～

戸塚委員：

- ・賢く使う、複合化と考えると、全ての部署に関連したことになる。
対話の場第二弾は、全部署でやっていかないといけない世界。それが仕事。4月1日から新年度でやるなら、推進会議も3月答申で頑張らなければ。

市 長：

- ・それを答申してもらえるとありがたい。(3)を。

山本委員：

- ・4月から各区長や町内会長も代わるのでは？そういう部分も頭に入れておいたほうが良い。残る人もいれば代わる人もいる。

会 長：

- ・答申については、基本的な考え方や推進体制を示すとして、対話の場でも意見が出尽くしていると思う。
- ・答申については3月に出せるのではないかと思う。
- ・他のプロジェクトにも迷惑をかけることもないと思う。各委員どうですか？

戸塚委員：

- ・最後のコミットは事務局。事務局がやると言ってくれば自分たちも頑張る。

専門監：

- ・答申は予定どおり3月ということでお願ひします。基本計画の策定は9月頃を目途にということにさせてもらい、答申の中には(3)についても含めてもらえるとありがたい。

会 長：

- ・資料2、2の(1)進めるうえでのポイントの中で、「相良庁舎の利活用・・・」という文章。外に出ていく可能性もあるので、「相良庁舎」という明記は避けたほうが良いのでは・・・？

専門監：

- ・相良庁舎は、空き施設のある庁舎の利活用に変更します。

会 長：

- ・(1) 対話の場の進め方については・・・？意見あればお願いします。
- ・「まとめ案」、「先導的なプロジェクト案」・・・とあるが、示せる？

事務局：

- ・今回は庁舎をどちらにするかなどの記載は避けて、9つ全てを並べ、全体像を見てもらい、振り返ってまとめをしてもらおうと考えている。
- ・先導的な案についても、どちらの庁舎とは限定せずに、空いたところをどう使うか？をプロジェクトとして位置付ける記載にしたい。

会 長：

- ・その対話の場の意見を聞いて、推進会議で話し合う。その中でどちらかの庁舎などの記載をすることになるかもしれないが、今回はこれでいいと思う。
- ・今までの集大成のような形。よく出来ていると思う。

(3) 公共施設マネジメント基本計画骨子案と基本理念第1次案について

～事務局による説明～

会 長：

- ・第5回の対話の場ではどのレベルまでの資料を出すのか？

事務局：

- ・これは出したいと考えている。(全部)

戸塚委員：

- ・「民間の活力」のくだりはどこかに入らないか？

事務局：

- ・2ページ「賢く使おう」の2番、新しい発想で有効活用しようの中で「公共性を持つ民間施設などとの・・・」という部分。みんなが主体的になるという中には一個人・団体もあるが民間という部分も入ってくると考えている。大きい部分ではこの二つ。

戸塚委員：

- ・かなりのウエイトが民間の手で運営される姿が予想される。何でもかんでも地方自治体が全てをやる時代ではなくなってくると思う。20年計画を基本にしているので、そのあたりのことを基本理念に言葉として入れたほうが良いのでは？

会 長：

- ・先日、福島県いわき市のあるスーパーに行ったときのこと。店員が12/24に1000個のクリスマスケーキを恵まれない方たちに配った。無償奉仕。立派だと思った。東日本大震災のときは、本社の通路を避難所として開放したこともあった。まさに時代はそういう方向に。そういうことは強く、色濃く出しても良いのでは？